

Rotary 関ロータリークラブ

2020～2021年度国際ロータリーテーマ

ロータリーは機会の扉を開く Rotary Opens Opportunities

RI会長：ホルガー・クナーク

関ロータリークラブ会長テーマ

志～奉仕の理想を高さ志で実践しよう

55代会長：木村 聡

「関の刃物」は700余年の歴史を誇り、「折れず、曲がらず、良く切れる」関鍛冶の伝統を受け継いでいます。

会長 木村 聡
副会長 加藤 照彦
幹事 酒向 徳享

D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT



本日のプログラム 第2576回例会 2020年8月4日(火)

「会員卓話・自社PR」

臼田龍司会員・掛布真代会員



ロータリーは機会の扉を開く

前例会の記録・第2575回 7月28(火)12:30

「新会員スピーチ」

秋柄達也会員・真鍋孔透会員

◆開会点鐘

◆会長挨拶 木村聡



本日は我がクラブの新たな戦力となって頂く新会員の秋柄さんと真鍋さんの自己紹介スピーチです。お二方にはご自身の人となりや会社の業務内容などについて、短い時間ではございますが、余すところなくご紹介頂けることを期待しております。さて広報誌のヘッダー部分について少しご説明させていただきますと、本年度のテーマは「刃物」です。ここ十年ほどのテーマを調べてみましたが、「刀鍛冶」「小瀬鶉飼」「関善光寺」等、関といえばというのが当然ながら数多く取り上げられていましたが、関市の地場産業である「刃物」がございました。私の仕事柄「刀鍛冶」ではなく「刃物」というところに拘りを持ってのデザインであります。しかし歴史的には「刀鍛冶」あつての「刃物」ですので、少し刀鍛冶について触れさせていただきます。日本刀は一般的に「五箇伝」という五つの流派に分類されます。「大和伝」「山城伝」「備前伝」「相州伝」「美濃伝」がそれです。その中で「美濃伝」は歴史が一番新しく、鎌倉時代中期良質の焼刃土を求めて九州から来住した元重を始祖とし、南北朝初期には志津三郎兼氏が大和伝を、中期には金重が相州伝をもたらし、それらの影響を受けながら確立されました。関鍛冶には「兼」を冠する多くの刀工が多く、特に室町時代後期の孫六兼元と和泉守兼定が人気・実力を二分していました。その切れ味は評価が大変高く、

江戸時代の業物位列ではともに「最上大業物」と位置づけられています。「折れず、曲がらず、よく切れる」と実用本位のみならず、孫六の刃紋「三本杉」は意匠面においても特徴的であったことも付け加えておきます。戦国時代には旺盛な需要によって隆盛を誇った美濃伝も、江戸時代になると重要が減り、各地の大名の城下町に移住するようになり徐々に衰退していきます。その後明治の廃刀令などを経て、需要がなくなった刀から生活道具（主に刃物）へ作るものを変えて今日に至るといふ大雑把な流れです。しかし実際のところ関では鍛冶による刃物作りはほとんど行われておらず、業界としても刃物業界と刀剣業界はそれほど交流がありません。それぞれの業界発展のためには、両者のタイアップに某かの突破口がありそうです。小瀬のある業者さんでは、従来は刃物のドライブインを営んでいたものを、これからの観光はモノからコトに変化していくんだという考えのもと、大きな投資を行い、刀匠による手解きを受けながら刀鍛冶を体験できる施設を作ったことは、まさにコラボの一つの形だと思えます。そのほかにも自ら居合い切りの実演を行ったりするなどし、インバウンドの流れをガッチリと捉えました。我々も異業種とのコラボは、新たな攻め口を作るという点において、是非念頭に置くと良いと思えます。志を同じくする信用できる仲間内で、相乗効果が生み出せるコラボができると思います。そのためにはお互いをもっと知り合い、語り合うことが必須となるでしょう。

◆委員会報告

◎出席委員会 副委員長 大澤竜一

会員 50名中 出席 32名 出席率 64.00%

◎ニコボックス委員会 委員 栗倉晋吾

会長・副会長・幹事・・・本日は新会員スピーチです。

秋柝達也さん、真鍋孔透さん、2 度目の例会、緊張もあると思いますが、期待しておりますよ。頑張ってください。

秋柝達也会員…本日新会員スピーチで大変緊張しております。

亀井高利、林隆一、杉浦孝志、堀部哲夫、高井昭裕、酒井泉、加藤浩二、土屋佳久、福田春彦、林昇、粟倉晋吾、長尾一郎、古田貴巳、後藤信介、尾崎嘉彦、大岩寿喜子、臼田龍司、奥村敏教、山田一成会員の皆さん…秋柝さん、真鍋さん、新入会員スピーチご苦労様です。皆さんにより早く知っていただく為にも、思う存分 PR してください。楽しみにしています。

加藤浩二会員…先日のゴルフ部会のコンペにて、隠しホールがうまくはまり、優勝することができました。実力はまだまだです。うまくなれるよう努力します。ありがとうございました。

◆「新会員スピーチ」 秋柝達也会員



今年度入会させていただきました秋柝達也と申します。7 月 4 日の総会では少しご挨拶させていただきましたが、お見えにならなかった方もおられましたので改めてご挨拶申し上げます。今後とも宜しくお願い

いたします。

私は青協建設に勤めております 1960 年 2 月 22 日生まれの 60 才、還暦でありまして奇しくも弊社も設立して 60 周年と、還暦とは一回りして元にかえるという意味では心機一転とっておりました年に、関ロータリークラブに入会させて頂いたのも、何かのご縁とっております。弊社からは過去、何人も関ロータリークラブにお世話になっておまして、何度もお聞きとは存じますが改めて、弊社の成り立ちを紹介させて頂き、本日の新会員のスピーチとさせていただきます。弊社は、昭和 28 年 7 月 1 日に青年団 OB が集って青年協議会を発足したのが弊社の母体で、折しもこの地域一帯が局地的豪雨に見舞われ、河川の氾濫で浸水や流失した家屋が 800 戸ほどあり、当時はまだ下水処理が当然整備されておらず、トイレなどの糞尿が濁流とともに関市中心街一帯に流れ出し、市民生活に多大な影響が出たために見かねた青年協議会のメンバーが集結して撤去処理しているのを見られ、関市より要請を受け青年協議会、災害処理班を組織し奉仕活動を続けることとなりました。その後、幾度となく大型台風の襲来や河川の氾濫で災害復旧をしていく中、再度関市より日当を支払うので土木部直属の労働力として協力してほしいとの申し出を受け、昭和 34 年 1 月 5 日

に青年協議会、建設班を組織しました。その年の 9 月 26 日に皆さんもご存じの伊勢湾台風の襲来で未曾有の大災害となり、関市からも要請がありましたが青協建設班は要請よりも早く、我家を後回しにして復旧作業に駆け付けました。幾多の奉仕活動が評価され、関市より土木工事などを請け負わないかと声を掛けて頂き、昭和 35 年 4 月 25 日に建設業の知事認可を取り関市の公共事業を請け負うこととなり「青協建設 株式会社」を設立しました。以来、60 年間様々な災害の応急対応や復旧作業に携わり、近年では 2011 年に東日本大震災後の排水作業を宮城県で、2018 年には関市上之保の水害後の廃材の運搬・清掃等を、昨年 2019 年には台風 19 号 21 号での災害復旧に宮城県にと行ってまいりました。また、微力ではありますが毎月 1 回弊社周りの道路歩道などの清掃作業もさせて頂いております。弊社の社是の冒頭に「建設の使命に徹して 社会の信頼にこたえる」という一文がございますがまさに設立以前からの奉仕の精神であり、モットーの「和協」は仲良くして力を合わせる、または、音の調子を合わせるという意味ですが、弊社の考えそのものであります。しかしながら、60 年も経ちますと言葉にしては出しますが本来の精神は若干薄らいできているように思います。そんな折、関ロータリークラブに入会させて頂くこととなりました。そのロータリークラブの「奉仕の理念」という精神と弊社の精神と相通ずるところが多分にあると思います。ゆえに、冒頭の何かのご縁とはこのことと理解し、公私ともに鋭意努力してまいる所存ですので、今後とも重ねて宜しくお願い申し上げます。

◆「新会員スピーチ」 真鍋孔透会員



本日は私のこれまでの経歴と入会に至った経緯、今後の抱負についてお話させていただきます。私は昭和 52 年に父の出身地の徳島で生まれました。父は岐阜大学医学部出身で、その後岐阜に戻ることに

なり、私が 5 歳の時から関市に住むこととなりました。小学校は当時新設されたばかりの桜ヶ丘小学校、中学校は滝中学校に入学しました。私が 10 歳の時に父が内科を開業したことで私が医師になるという流れがきまり、急遽中学受験となりました。滝中学校には名古屋からの生徒も多く、関市から 1 時間半かけて通う私は完全な田舎者の扱いでした。でも私は自然豊かな関市が好きで苦になりませんでした。交通の便が悪いのは問題としましたが、戦前計画されていたものの実現しなかった、中濃新線という鉄

道計画を知ってからは、中濃新線実現を願うようになり、今でもひそかに中濃新線実現を願い続けています。滝中学、滝高校と6年間遠距離通学したのち、岐阜大学医学部に進みました。卒業後は消化器科を専門とする岐阜大学の第一内科に入局しました。

大学病院での研修は大変忙しく、毎日夜遅くまで帰れず、週に3日は大学病院に泊まりました。研修医は看護師よりも立場が下で、採血や点滴、検査の準備や検体の搬送など看護師の業務を含めたあらゆる雑用をこなしました。大変でしたが、この大学病院での研修のおかげで、医師としての体力、忍耐力がついたと思います。今は働き方改革や研修医制度の見直しで当時のような研修はなく、先輩が残っているなか研修医が17時に帰るということもあります。そんな研修方法で大丈夫かなと自分の経験を振り返って思います。

大学病院での研修後は羽島市民病院に赴任しました。羽島市民病院では消化器科の基本の検査を教わるとともに内科一般の診療を担当し、徐々に一人でいろいろこなせるようになっていきました。その後、滋賀県長浜市の市立長浜病院へ赴任しました。長浜病院は消化器科の検査や治療が大変多く、胃カメラや大腸カメラ、早期胃がんの内視鏡的手術や吐血に対する緊急内視鏡止血術、肝臓癌に対するカテーテル治療や胆管結石の内視鏡的採石術などを数多く行い、消化器科専門医、内視鏡専門医としての研鑽を積むことができました。

その後名古屋セントラル病院に赴任しました。ここでは消化器科の診療と内科一般の診療を担当しました。名古屋では病院と開業医の定期勉強会で知り合った恒川クリニックの恒川洋医師との出会いが転機となりました。恒川先生はホリスティック医学を実践されていました。ホリスティック医学とは西洋医学だけではなく、東洋医学や鍼灸治療、呼吸法やヨガなどあらゆる治療を取り入れ、さらに患者さんの人生や周囲の環境までも取り込んで、一人の患者さんを全人的に包括的に診療するというものです。民間医療と混同され誤解されることも多いですが、西洋医学を基本とすることが前提です。データを見て患者を診ずとなりがちな西洋医学の欠点を補う重要な考え方だと感じました。ただ全人的に患者を診るといのは簡単ではありません。恒川先生は医学だけでなく、歴史や社会全般に造詣が深く、教養ある方で、それまで私は医師の仕事は一生懸命やってきた自負がありましたが、医療界以外の世界をあまりに知らない、教養が足りないと感じかされました。恒川先生との交流のなかで、先生が歴史勉強会を立ち上げこれに参加しましたが、この勉強会には恒川先生を通じて異業種の方々が集まり、大変勉強になる、楽しい会となりました。幅広い教養を身につけ

ることが診療にとっても重要であることに気づくことができました。

平成26年4月、父が介護事業と法人の経営に専念するため診療所を任されることとなり関市に戻りました。診療所では外来診療とともに、診療所併設の老人ホームの入居者すべての主治医となり、24時間のオンコール体制で対応し、忙しい日々を過ごしました。現在は法人内の再編で診療所の外来業務に専念しています。診療ではなるべく患者さんに寄り添うよう努力していますが、前述の全人的な医療、ホリスティック医学を行うにはまだまだ教養も足りず、人間力が足りないと感じ、前述の名古屋での会のような、異業種の方々との交流を通じて成長したいと思うようになりました。また地域社会の一員として、地域医療を通じてだけではなく、より具体的に社会に貢献したいと思うようになりました。そうしたなか、早川力先生より関ロータリークラブに入らないかと声をかけて頂き、その後高井先生、藤井先生にご賛同頂き入会させて頂くこととなりました。私にとって本当にいいタイミングだったのでこれも何かのご縁だと思っています。今後は関ロータリークラブでの皆様との交流や活動を通じて人間力を高め、より深い人生を送り、よりよい医療を提供すること、社会に貢献することが目標です。今後のご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



◆幹事報告

◎前例会で熊本豪雨災害義援金を募ったところ、皆様のご協力により28,000円集まりました。全額ガバナー事務所へ送金しましたことをご報告いたします。

◎8月の例会予定表配布

◎例会終了後「理事、役員会」開催

◎8月のロータリーレート 1ドル：105円

次例会のご案内 8月22日(土) 17:10
「納涼例会・ボウリング大会」 8/18(火) 変更
於：関ボウリングセンター